

# コロナ禍における海外留学に対する学生の意識

## ー講義と体験談への学生のコメント分析を通してー

川 崎 千枝見  
宮 永 愛 子

### 要旨

山口大学留学生センターでは、学部1年生対象の教養コア系列キャリア教育分野科目「知の広場」において「海外留学」に関する講義を行っており、2021年度は1000名以上が受講した。受講後に学生が作成したコメントをKH Coderで分析し、コロナ禍における学部1年生の海外留学への意識を探った。その結果、先行研究で留学の阻害要因と指摘されている費用・留年・語学力といった項目について講義で情報を得、さらに海外留学経験者の体験談にふれることで留学の希望を明確にする例や、留学はしないが国内の身近な環境での国際交流や新たな経験に言及する例など、1年生の段階で留学に関する情報提供を行うことの有用性が示唆された。

### キーワード

海外留学、学生の意識、留学体験談、留学生センター、KH Coder

## 1 はじめに

### 1.1 講義の背景

山口大学共通教育科目である「知の広場」は教養コア系列のキャリア教育分野の科目である。「大学での学問、社会、地域のかかわり、グローバルマインドをはぐくむことを通して、社会での働き方の他、大学生活を有意義に過ごすための考え方と方法論を学ぶ」<sup>1)</sup>科目として学部1年生を対象に実施されている。

留学生センターでは例年、この授業を通して、海外留学に関する情報提供や留学のために必要とされる英語資格試験の受験に関する情報提供などを行い、海外留学に対する動機づけを行ってきた。

しかし、2019年度末からのCovid-19の流行により、海外への留学が非常に難しい状況となった。本学では、2019年度後期に派遣

留学（交換留学）の学生が帰国して以降、2021年夏に一部の地域への海外留学が再開されるまで、海外留学に行ける状況にはなく、2021年度前期の講義を行う時点でも海外へ出ることはかなり難しい状況であることには変わりがなかった。その状況下で、留学に関する講義を学部1年生がどの程度興味関心を持つのだろうか、前向きに考える契機となりうるのかという懸念はあった。しかし、本学において派遣留学等で海外へ出るのは3年次が中心であり、そこへ向けた準備のための情報提供という側面が大きいことから、今年度の講義内容も基本的には従来通りの構成とし、加えて海外留学経験者による体験談にふれることで、海外留学や留学でなくとも未知の世界へ踏み出すことについて考えるきっかけとなればと考えた。

大学生の留学に対する意識について、岩

木・野水（2011）は、海外留学に関する授業レポートの分析から学生の意識を探った。

「留学に行きたい」「行きたいが躊躇」「行きたくない」に分類し意見を分析したところ、「躊躇する」理由と「行きたくない」理由に金銭面、就職が遅れる、語学力などの共通点が多く見られた。留学の阻害要因に関して、学部1年生を調査した奥山（2015）でも語学力、費用、安全性、授業が遅れることなどが挙げられていた。

学生のタイプによる海外留学に関する意識の差異については、小島・内野他（2014, 2015）が学生の性質（「内向性（内向き）」「外向性（外向き）」）と留学意思および国際交流意志との関連を検討した。その結果、留学に関しては外向群には内向群より留学意思があるが、一方で国際交流の意思と経験においては両群の間に差はなく、留学に比べて国際交流は抵抗感が低い可能性を指摘している。

また、海外留学に関する意識調査の中で繰り返し指摘されていることに、大学の留学制度の認知度の低さがある（園田・野田, 2017; 岩木・野水, 2011）。大学が留学セミナーや個別相談の時間を設けていることを知らないなど、学生に情報が届かないケースは珍しくないことが推測され、いずれの論文も情報発信の重要性に言及している。

## 1.2 本稿の目的

本稿では、本学学生の海外留学に対する意識を探るために以下の2つの点について明らかにすることを目的とする。

①留学に対して学生はどのような意識を持っているのか。

②留学への興味の有無や今回の講義を受け留学したいと考えるようになった学生はそれぞれどのような点に言及しているのか。

この結果を、今後留学生センターで実施する海外留学に関する情報提供の方法を検討す

るための資料としたい。

## 2 講義の概要

### 2.1 2021年度「知の広場」

「知の広場」は前期と後期にそれぞれ開講されており学部単位で受講することになっている。オムニバス形式で実施され、留学生センターは各期1回ずつ講義を担当している。授業は予め録画したものを学生が視聴するオンデマンド形式で行われた。受講した学部は、前期が医学部（保健学科のみ）、経済学部、人文学部、後期が共同獣医学部、工学部、農学部、理学部であった。

### 2.2 留学生センター担当講義の内容

講義は2部構成とし、第1部は講義を担当教員が行った。第2部は海外留学経験者による体験談の動画を2名分視聴させた。

前期と後期の講義内容はほぼ同じで、学内奨学金の募集期間等を講義実施時に合わせた内容に変更した。

受講生には講義後に、講義を受けて考えたこと、具体的には、次の3点についてコメントを提出するよう求めた。①「留学」に対するイメージ、興味の有無、②留学経験者2人の動画を見て感じたこと・考えたこと、③その他（自由に）の3点で、本稿ではこれら进行分析の対象とした。

#### 第1部 講義

1. 留学生センターの紹介
2. 海外留学の方法（期間・形態の違い）、海外協定校の紹介
3. 交換留学のメリット（授業料免除、単位互換制度の存在、4年で卒業ができるスケジュール、安心感）
4. 留学にかかる費用の目安
5. 山口大学の留学支援制度（「はばたこう」の概要、支援実績、英語資格試験の受験支援）
6. 留学に向けて（4年で卒業するためのスケジュール例）

7. 山口で今できること（大学内外の外国人（留学生）支援ボランティアや交流行事等の紹介）

## 第2部 海外留学経験者の体験談(2名)

1. 学生 A（ドイツ，派遣（交換）留学）
2. 学生 B（フランス，派遣（交換）留学）

学生 A, Bともに、2019年度後期の派遣留学で協定校に留学したものの、Covid-19の流行により、留学期間途中での帰国を余儀なくされた。Aは留学先での生活の様子に加え、留学を通して自身の変わった点、「自分で選択すること」の大切さなどを後輩へのメッセージとして語り、Bはフランスでの留學生活の紹介とともに、「自分で環境を選ぶ」ことや「後悔しない行動をする」ことについて語った。両名とも留学初期から楽しく前向きにはいかなかったもののそれをなんとか乗り越えて生活していた様子を紹介し、留学に限らず、学生生活の中で「自分で選ぶ」ことをキーワードとして挙げていた。

## 2.3 受講者

受講者の内訳は表1の通りである。全9学部のうち7学部が受講し、医学部は2学科のうち保健学科のみ、他の学部は全学科が受講した。教育学部および医学部医学科、そして、1年間の海外留学がカリキュラムに含まれる国際総合科学部は受講対象外であった。

表1 学部別受講者数（人）

	医	共 獣	経 済	工	人 文	農	理	計
前期	112		131		88		2	333
後期		29	2	416		97	201	745
計	112	29	133	416	88	97	203	1078

## 3 分析

### 3.1 対象データ

表1の受講生のうち、本稿では1年生のみを分析対象とした。前期329名、後期734名の計1063名で学部別の内訳は下の表2のとおりである。

表2 分析対象者数（人）

	医	共 獣	経 済	工	人 文	農	理	計
前期	112		130		87			329
後期		29		410		97	198	734
計	112	29	130	410	87	97	198	1063

## 3.2 結果

### 3.2.1 データの概要

本稿ではテキスト型データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアであるKH Coder (Version 3. Beta. 04a)を分析に用いた。多変量解析によりデータを要約・提示することおよびコーディングルールにより問題意識の追及を行うことの両面からの分析を可能とすることを目指して開発されたものである(樋口, 2020)。

KH Coderに搭載されている茶筌により形態素解析を行った結果<sup>2)</sup>、総抽出語（トークン）数は150,630語、異なり語（タイプ）数は3753語、文の総数は4,972文、段落数は1457個であった。

どのような語が多く使用されているかを「抽出語リスト」作成機能により、作成した。上位75語を表3に示す。次に同じ文書中に共起する語を調べるため、共起ネットワーク分析を行った。表3の75語を含めた上位150語のうち、上位80の共起関係をネットワーク図に描画した。円の大きさは抽出語の出現頻度、線は語と語が共起する関係にあることを表し、語同士の距離には意味はない。同じグループに属す語は直線で、それ以外は破線

で示されている。図1に示すとおり、6つのグループに分けられた。

グループ1には、学生が今回の講義を受けて、知り、考えを巡らせた様子がうかがえる。「思う」「自分」「考える」「感じる」「知る」「今回」「興味」「聞く」「話」「講義」の各語が含まれた。グループ2は「留学」「海外」「行く」で、この講義の主題に関する語であった。グループ3は「身」「置く」で、先輩の経験談から「新しい／異なる／選択の必要な」環境へ自分の身を置くことへの共感や意欲を示す記述がみられた。グループ4の「動画」「見る」は、今回の講義が録画によるオンデマンド形式で行われていることに起因すると思われる。グループ5は「印象」「残る」で、留学経験者の話で印象に残ったことばに言及するものや、「留学は何かと手続きが面倒くさそうという印象がまず取り払われた」と、留学に対する印象について語っているものが

表3 抽出語 上位75語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
留学	3463	見る	228	大切	142
思う	1879	後悔	220	自信	138
自分	1558	英語	218	留学生	137
行く	615	分かる	217	良い	135
興味	613	選択	214	言葉	131
知る	593	少し	212	受ける	129
考える	587	実際	211	支援	126
聞く	571	生活	208	積極的	126
感じる	565	必要	204	交流	120
今回	482	二人	201	言語	119
話	436	機会	197	国	119
海外	430	日本	193	身	118
行動	426	多い	184	先輩方	117
人	411	得る	177	参加	114
今	401	変わる	176	授業	113
講義	386	チャンス	174	難しい	111
環境	362	先輩	172	違う	110
山口大学	351	文化	170	成長	109
経験	342	様々	167	制度	108
学ぶ	318	単位	159	体験	107
大学	295	行う	156	楽しい	106
持つ	288	出来る	153	お金	105
イメージ	284	留学先	147	たくさん	105
動画	262	費用	146	授業料	105
変える	233	交換留学	145	不安	105

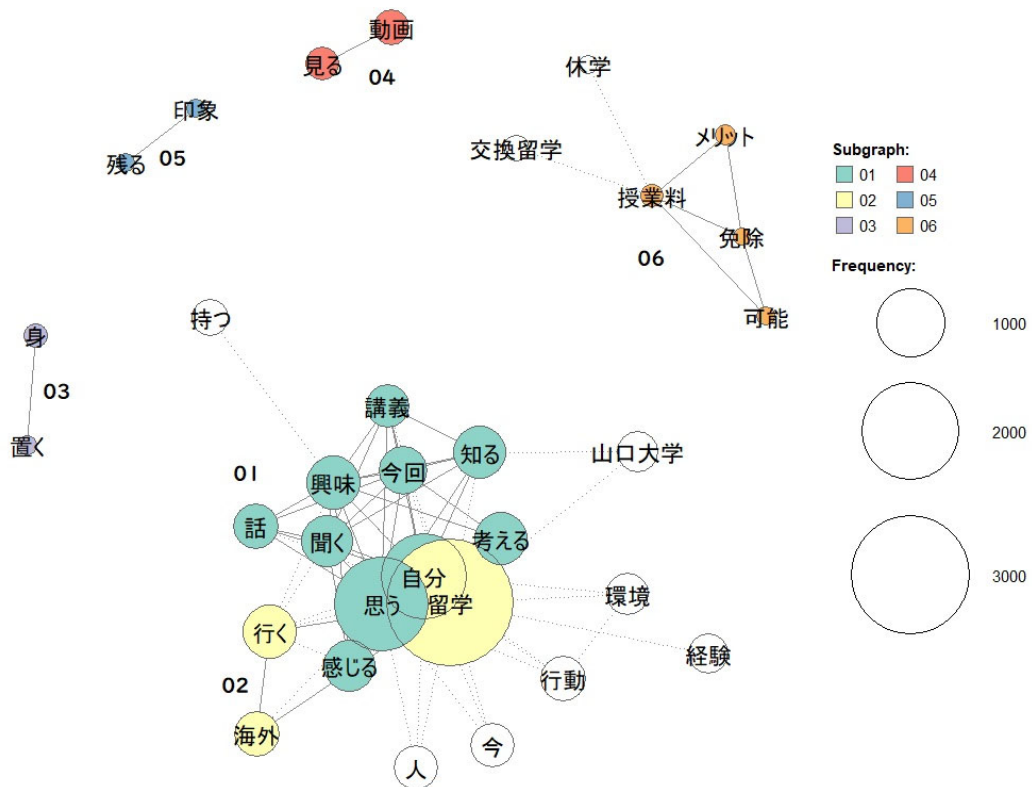


図1 抽出頻度上位150語による共起ネットワーク

あった。グループ 6 には「授業料」「免除」「メリット」「可能」の各語が含まれていた。今回の講義で山口大学の派遣留学制度や大学の留学支援制度の具体的内容を知り、それをメリットとしてとらえている様子がうかがえる。

### 3.2.2 クラスタ分析

つぎに、クラスタ分析（抽出法：Ward 法，距離：Jaccard）により内容が似たコメントの群を特定し，各群に含まれる記述について検討を行った。分析は抽出語上位 75 語を用いた。クラスタ数はクラスタ結合水準の値を検討し，9 とした。図 2 にデンドログラムを示す。

クラスタ 1 には「講義」「今回」「海外」「行く」「先輩」「話」など今回の講義についての概要を示す語が集まっている。

クラスタ 2 には「動画」「見る」「イメージ」「二人」という語があり，それまでに持っていた「イメージ」に関する言及や先輩の留学体験談にふれて「イメージ」が変化すると述べる例があった。

クラスタ 3 には「環境」「行動」「変える」「チャンス」「後悔」「選択」といった語が集まっており，先輩 2 人の留学体験談の中で語られた，「自分で行動すること」，「自分で環境を選ぶ」，「後悔しない選択」といったことが印象に残ったといった記述がみられた。留学に行くか否かにかかわらず，Covid-19 の流行のために留学期間を切り上げて帰国せざるをえなかった 2 人のことばに共感するコメントも多かった。

クラスタ 4 には「国」「言語」「文化」「違う」といった語が入り，「違う」ことに関して肯定否定両面の意見が見られた。大変だというイメージや苦手意識を持っていたが講義を通して，「価値観や考え方を広げられることを知り，楽しそうだというイメージが変わった」というものもあった。

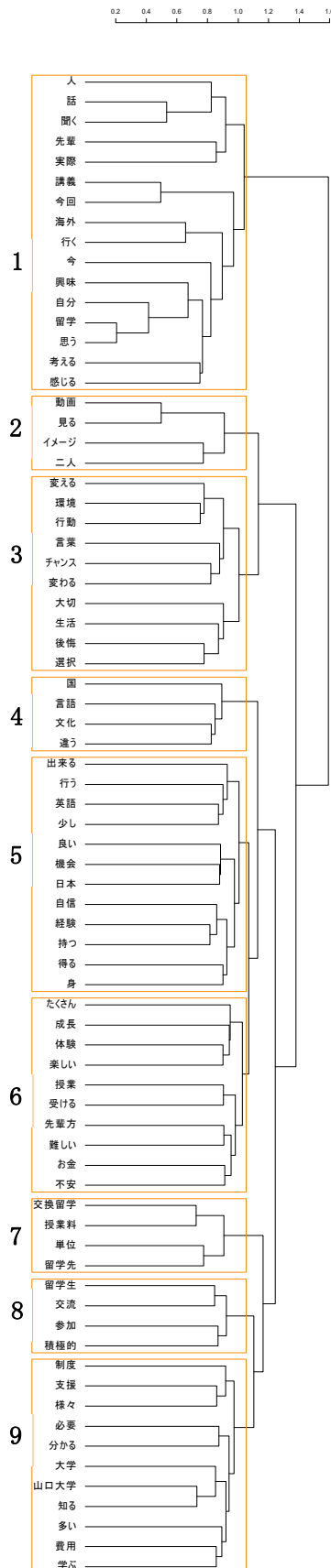


図 2 クラスタ分析結果

クラスター5には、「英語」「できる」「行く」や「日本」「機会」、「経験」「自信」「持つ」といった語が集まっている。

クラスター6には、「体験」「楽しい」「成長」といった前向きなことばと「お金」「不安」「難しい」といったことばが入っている。費用に関するコメントは多いが、実際にかかる費用や、大学の支援制度の存在を知り思っていたほどではないと考えたというコメントも複数見られた。

クラスター7には「留学先」「単位」「交換留学」「授業料」と、留学に関する制度に関する語が見られた。「留学先」となる協定校が108校に上ること、留学先を自分で選ぶことができることへの言及があった。派遣留学では、単位互換制度により留学先で単位を取得できることや、山口大学の授業料のみで留学できることを新たに知り、大きなメリットだととらえているコメントも多かった。

クラスター8には「留学生」「交流」「参加」「積極的」という語が見られた。海外への留学は考えていないが、学内にいる外国人留学生や地域での国際交流イベントへの参加を考えてみたい、してみたいという意見が多くみられた。

クラスター9には「山口大学」「費用」「制度」「支援」「様々」といったことばが入っていた。今回の講義で山口大学の留学や支援制度について知るよい機会となった、具体的な情報を得ることで、考えるきっかけとなったというコメントが多数見られた。自分は海外留学に行くつもりはないが、今回のように紹介の機会があるのは良いと思うという意見もあった。

### 3.2.3 留学への興味の有無による言及内容の違い

留学への興味の有無と、コメントとの関係を調べるため、全1063のコメントを記述内容によって、1. 留学に興味がない／しない、

2. この講義を通して留学に興味を持った、3. 以前から留学に興味があった、4. 興味の有無が不明<sup>3)</sup>の4つに分類し、1～3のグループについて検討を行う。まず各グループの特徴をみるために対応分析を行った(図3)。次に1から3の各グループについてそれぞれ共起ネットワークを作成した(図4～6)。

各グループの内訳は表4の通りである。

コメントの内容について大まかな指示はあったものの自由記述であるため、留学に対する興味関心に触れていないもの、判断がつかないものも多かった。今回は探索的に学生の意識を探るため判断可能なもののみを対象として分析を行う。

表4 各グループの内訳(人・数)

	1.興味なし	2.興味発生	3.興味あり	4.不明
人数	150	229	287	397
総抽出語数	22,186	31,986	42,739	
異なり語数	1,688	1,880	2,181	

対応分析の結果においては原点から遠いほど特徴的な語であることを表している。図3では各グループの位置関係から、グループ間の相違も見るができる。「興味がない／しない」と「以前から興味あり」のグループが近くに配置された。「留学に興味がある」ものの、実現は難しいと考えている／考えていた学生も少なくないことや、「留学はしない」と述べる学生が留学の有用性について言及することもあった。両グループの間の位置に「英語」「不安」といったことばが共通項として見えている。「興味を持った」グループでは、「聞く」「制度」といったことばがこのグループの特徴語として挙げられる。本学の留学制度や支援制度を知ることが要因とな

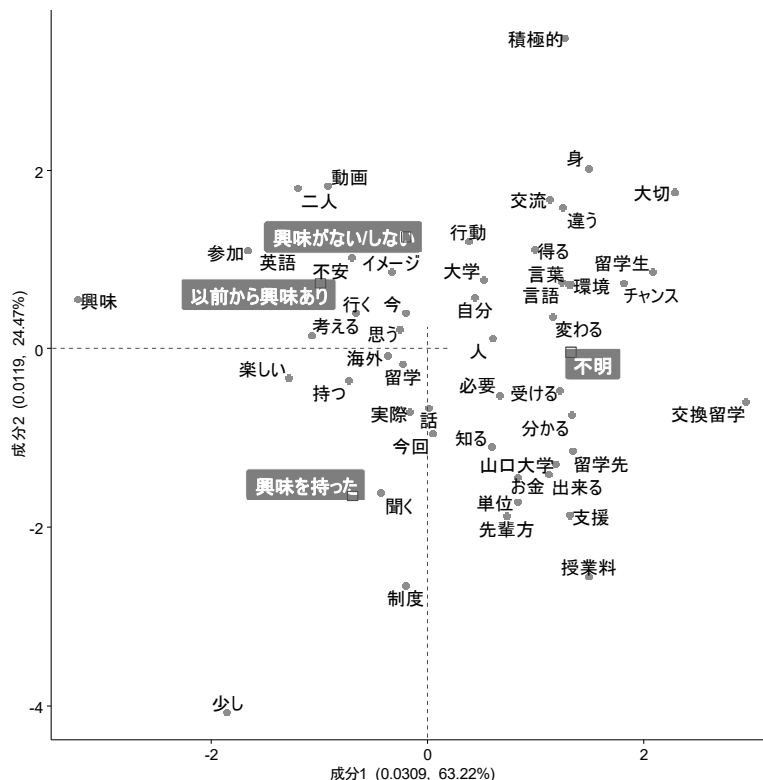


図 3 留学への興味の有無と各グループに特徴的な語

っていることがうかがえる。

次に、1～3 の各グループについて個別にみていく。

1. 留学に興味がない／留学をしないと答えたグループ：図 4

このグループでは、「英語」が「苦手」であることを留学に行かない理由として大きいことがうかがえる。

「環境」を「変える」こと、一步踏み出してみることに興味が上がっている。これは学生 B が体験談の中で語っていたフレーズで、これが印象に残っているというコメントや自分もそのようにしたいというコメントがあった。「後悔」「選択」も同様に「後悔しないよう選択、行動する」という学生 B のことばを引用している例が多くみられた。

なお、カテゴリー化には至っていないものの、ほかのグループとは異なる点として、「山口大学」「留学生」という語が多くみら

れた。学内には留学生が多数在籍していること、学内での交流の機会があることを知り、意欲や関心を持ったというコメントがみられた。

2. 今回の講義を通して、「興味を持った」と述べた学生のグループ：図 5

これまで留学したいと思わなかった／縁のないものと思っていたが、講義を経て留学を考えてみたいと述べていたグループである。

「今」は「今までは関係がないと思っていた」や「今はコロナの影響で留学はできないと思うが影響がなくなったら留学してみようと思う」といったコメントが見られた。留学実現までに年単位の計画・準備が必要であることを「今回」の「講義」で知ったということのようである。また、体験談を聞き、「自分で」選択し行動することへの言及が見られた。これは「動画」「見る」という語にも表れている。

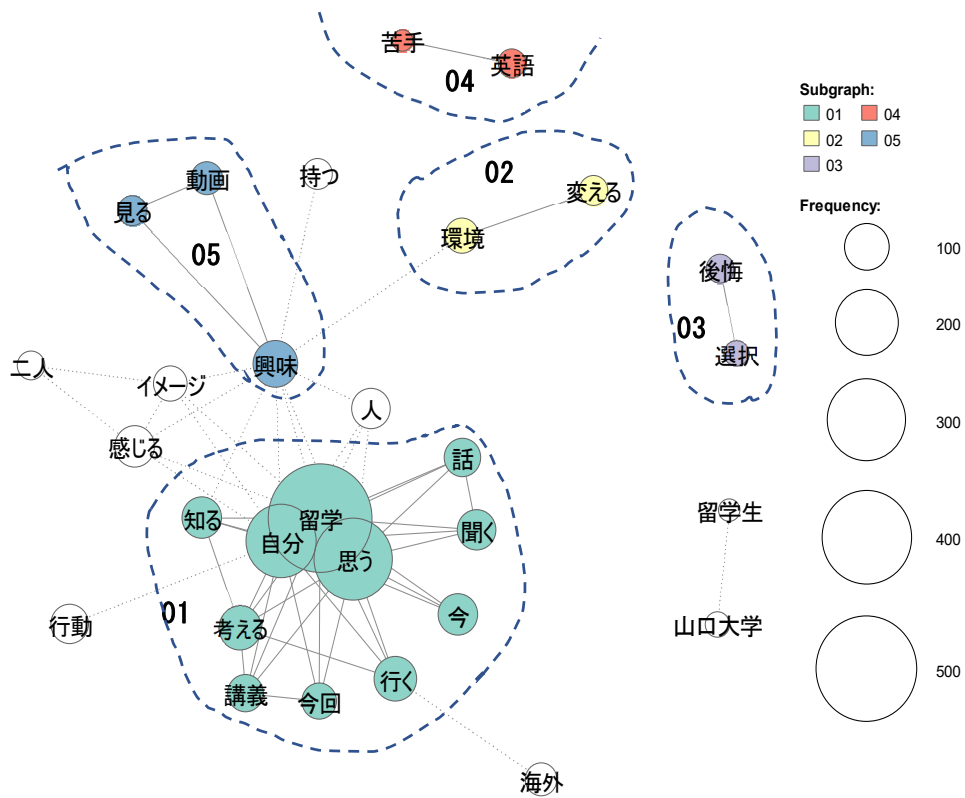


図4 「留学に興味がない／しない」と述べた学生の共起ネットワーク

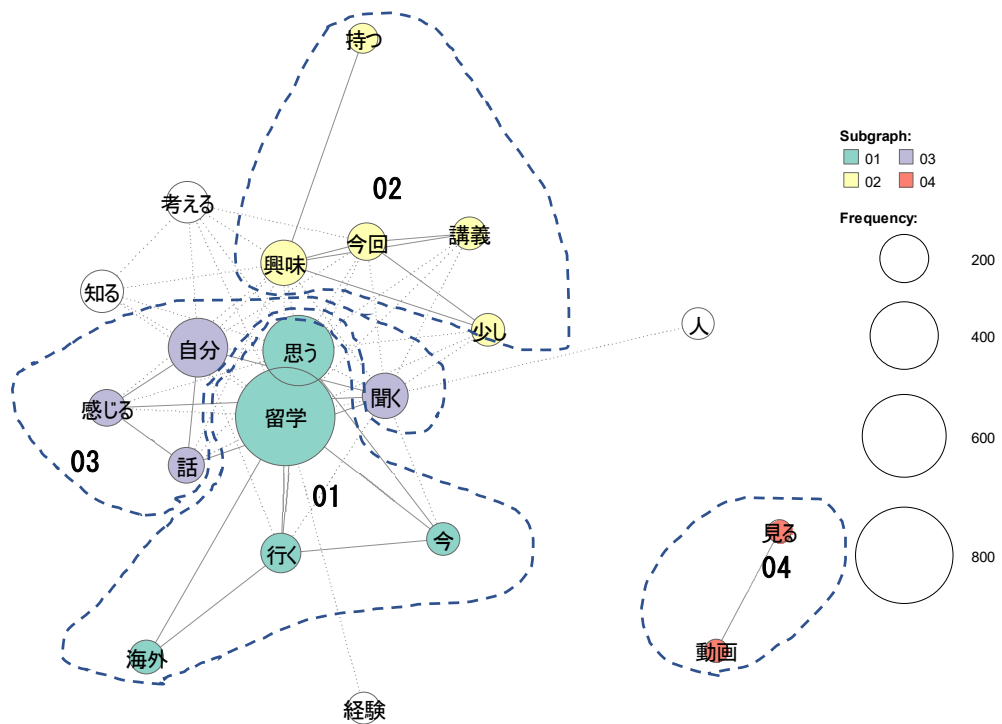


図5 今回の講義を通して「興味を持った」と述べた学生の共起ネットワーク



3. 以前から留学に興味を持っていたグループ：図6

このグループは「海外」「行く」「思う」と、「海外」への興味が高いことが分かる。

「自分」「考える」「感じる」「行動」「二人」ということばから、二人の体験談からさらに留学や新たな「行動」を起こすことへの意識を持った様子が見られ、「今回」の「講義」で「動画」を「見る」、「話」を「聞く」ことを通して、留学について改めて考える機会となったことがうかがえる。

このグループ内でも留学実現をどの程度具体的にイメージしているかは人によって大きく異なっており、興味はあるが同時に不安もあるという学生は、留学体験談を見た感想として、「知り合いが誰一人いない環境で、不安も大きいと思うが、何をするかは全部自分

で決められるので、楽しいことも多いだろうなと感じた」と述べていた。

また、「留学への興味は少しだけ」であったという学生は「とてもハードルの高いものである」と思っていたが、様々な支援制度があり、誰でも留学できる可能性があることが分かった」というように、今回具体的な情報を知ったことで今後の大学生活を考えるきっかけとなったようである。ほかにも「山口大学」の協定校の多さや、単位互換制度、支援制度を留学の上での大きなメリットとして捉えているコメントが多数あった。

#### 4 考察

先行研究で留学の阻害要因として挙げられていた、費用、留年、不安、語学力といったキーワードは本稿においても多くみられたが、

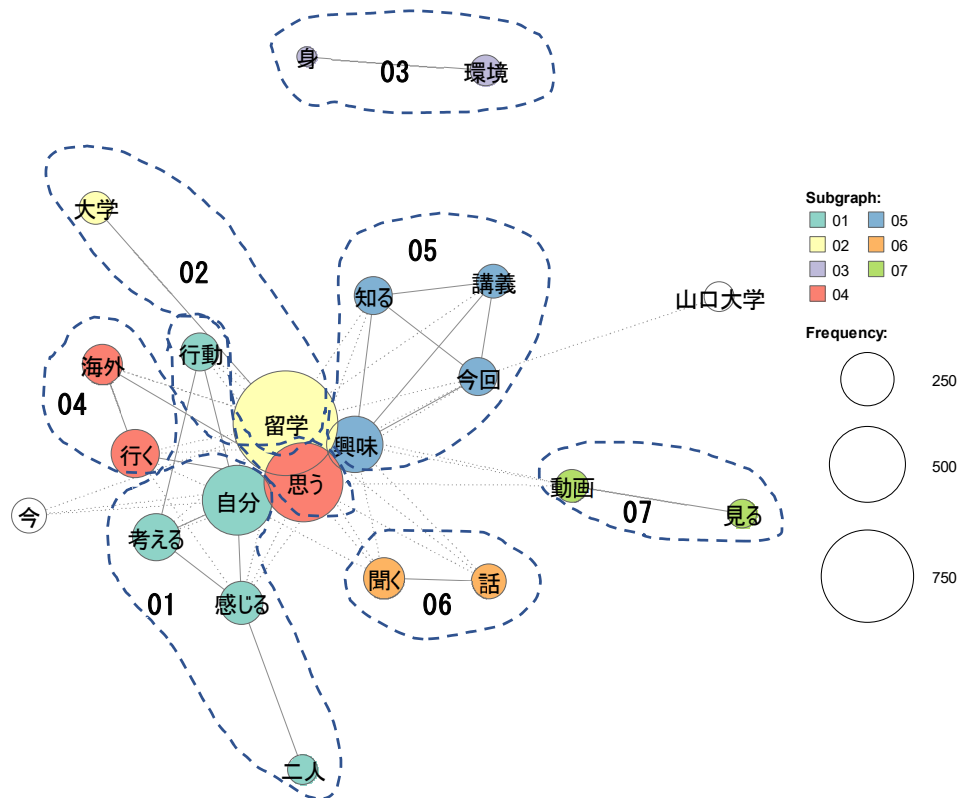


図6 以前から「興味があった」と述べた学生の共起ネットワーク

講義を通して情報を得ること、例えば半年間の留学費用を知り「何とかかなりそうだ」「やはり難しいと思った」等と具体的に考えたり、留学までのスケジュールについて「どんな準備が必要かわかった」というように大学生活の中に海外留学を位置づけたりといった記述が見られた。これは、先行研究で指摘されている大学側からの情報提供の重要性を裏付ける結果となっていると考えられる。

また、「海外留学に興味がない・海外留学をしない」ことが国際交流への興味を否定するものではなく、学内外での身近な国際交流に興味を示し、行動したいと述べる記述も少なくないことが分かった。海外留学への興味や動機の有無にかかわらず、これからの大学生活をどう過ごすか、前向きに考える契機となったことがうかがえる。

コロナ禍の中で海外留学について話を聞くことに関して、「はじめは疑問に思ったものの、留学には準備が必要であり、学生生活全体を考えたうえで計画実行する必要があること」を理解し納得したといった記述が複数見られた。さらにコロナ禍の影響を受けた先輩の体験談からは、海外留学に限らず新しいことへ挑戦する大切さを感じた学生が多かったようである。

一方で、「自分は海外留学を考えていないが、先輩の話を聞いて大学生活の過ごし方について考えた」といった意見も少なくなかった。「後悔しない選択を」という体験談中のフレーズは、高校時代をコロナ禍に過ごした1年生に大きく響いたのではないだろうか。

## 5 まとめ

本稿では、学生の海外留学に対する意識を明らかにすることを目的に講義後の自由記述コメントの分析を行った。その結果、大学からの情報提供と体験談視聴からなる講義の後のコメントが分析対象であったという点で、先行研究とは異なる視点から分析を行うこと

が可能となり、先行研究で留学の阻害要因として指摘されている「語学力」「費用」「安全面」といった項目に関し、学生のコメントに理解や安心感を示す記述をみることができた。また1年生の段階で、大学の留学制度や留学支援制度、留学までのスケジュールといった情報にふれる機会があることは、留学をしてみたいという漠然とした思いを持っている学生には、具体的に考えるきっかけとなることも今回の分析から明らかとなった。

今後は外部要因を整理したうえで、より詳細な検討を行いたい。

ここで得られた結果は、留学生センターの目標である「本学学生の海外留学を推進し、総合的に支援」し、「本学学生が、国際社会で活躍できるよう実践的な外国語・異文化理解の指導」を行ううえでの貴重な資料として活用することができる。また今回、「学内での交流に意欲」を見せた学生が一定数いることは同時に、「外国人留学生が、本学で快適に就学・研究・生活できる環境整備」というもう一つの目標ともつながっている。海外留学、国際交流というキーワードのもと学内外での交流がより盛んになるような方策を今後探っていきたいと考える。

(留学生センター 助教)

(留学生センター 准教授)

---

## 【参考文献】

- (1) 岩城奈巳・野水勉, 2011, 「名古屋大学生と海外留学 : 全学教養科目「現代世界と学生生活」課題レポートから見えてきたもの」『名古屋大学留学生センター紀要』8, 17-22.
- (2) 奥山和子, 2015, 「もうひとつのグローバル教育について : 留学に対する大学生の意識調査から」『神戸大学留学生センター紀要』21, 67-85.

- (3) 小島 奈々恵・内野 悌司他, 2014, 「日本人大学生の海外留学に関する意識調査 : 「内向き志向」と留学意思の関係」『総合保健科学』広島大学保健管理センター30, 21-26.
- (4) 小島 奈々恵・内野 悌司他, 2015, 「日本人大学生の国際交流に関する意識調査 : 「内向き志向」と国際交流意思の関係」『総合保健科学』広島大学保健管理センター31, 35-42.
- (5) 園田智子・野田岳人・舩橋瑞貴, 2017, 「理工系大学生の海外経験・留学に関する意識調査 一群馬大学留学調査(3)からの報告」『群馬大学国際教育・研究センター論集』16, 23-38.
- (6) 樋口耕一, 2020, 『社会調査のための計量テキスト分析【第2版】内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版

#### 【注】

- 1) 2021年度シラバスの概要より
- 2) 茶釜での形態素解析に先立ち, 「分析に使用する語の取捨選択」により, 一部の複合語を1語として分析するように指定した。たとえば「留学」は, 最も頻度が高い語であるが, 「留学先」「交換留学」「短期留学」「留学経験」「留学生」など様々な語と複合語を形成しており, 単独で分析する場合に比べ複合語による分析が有用と判断し, 複合語での抽出を行った。
- 3) 留学制度や留学に対する考えは述べられているが, 本人の留学に関する興味に言及がないものなどである。